



日野市立日野第四小学校

校長 三浦 寛朗

令和6年6月号

学校 Web ページ



学校標語 「夢中になれる 夢中にさせる 日野四小」

<https://www.hino-kyo.ed.jp/e-hino4/>

言葉遣いは心遣い

校長 三浦 寛朗

5月25日(土)、爽やかな空の下、令和6年度の運動会を無事に開催することができました。子供たちは、運動会のスローガン「協力して 笑顔あふれる最高な運動会に！」のとおり様々な場面で助け合い、協力し合いながら自分たちの競技や、係活動に取り組んでいました。一人一人が集中して、最後まで自分の力を出し切ることができたと思います。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、早朝よりご観覧いただきまして、誠にありがとうございました。皆様からの心温まる大きな拍手・声援に、子供たちは大きな達成感を得ることができたのではないかと感じています。

今年度の運動会は、体育館の空調施設(エアコン)の工事が夏から秋にかけて行われるため、5月の開催となりました。これまでの9月下旬から10月上旬に開催していた秋の運動会に比べて、練習時間の確保などで難しさもありましたが、保護者の皆様からのアンケートでは、子供たちの頑張りや心温まる励ましの感想とともに、すてきな運動会であったとの感想を数多くいただきました。ありがとうございます。アンケートでお寄せいただいたご感想、ご意見等につきましては、今後の運動会運営に役立てていきたいと思っています。また、運動会終了後には多くの方々に校庭に残っていただき、テントの片付けや杭抜き、ロープの取りまとめ等でご協力をいただきました。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、学校での子供たちの様子を見てみると、素晴らしいなと感じることがあります。それは、子供たちの仲の良さ、チームワークの良さです。同じ学級の子だけでなく、他学級・他学年の子とも仲良く過ごすことができる子も多いです。5月28日(火)には異学年交流活動である「縦割り班活動」がありましたが、どの班も高学年の子が中心となって、楽しく活動することができていました。

反面、課題だなと感じることもあります。それは言葉遣いです。「死ね」「ムカつく」「うざい」「きもい」「だっさ」など、相手を傷付けたり不快にさせたりする言葉が、普通の会話の中で使われていることがあり、驚かされます。これでは相手を大切にする、尊重するどころか、けんかやトラブルが絶えない関係になり、良好な人間関係を築くことは難しくなります。

「言葉は人格を表す(作る)」「言葉はその人の心を表す」と言われています。心とは、感情や気分の状態です。例えば、私たちは美しいものや自分にとって好きなものを見ると、穏やかな気持ちになり、言葉遣いや話し方が優しくなります。一方、誰かとけんかをしているときやイライラしているときには、相手に対して乱暴な言葉遣いになり、きつい口調になります。当然、相手も乱暴な言葉遣いで応酬すれば、言葉は互いの心を傷付ける武器になります。

本来、言葉は自分の気持ちを伝えるとともに、相手のことをより深く理解することで、人と人をつなぐ大切な物です。適切な言葉遣いは、長い時間をかけて、家庭生活や学校生活、社会生活の中で人と人の関わりで培われていくものです。そして、発達段階や状況に応じて、丁寧語や尊敬語を使えるようになることが求められていきます。保護者の皆様、家庭でのお子さんの言葉遣いはどうですか。学校では、道徳の授業や生活指導の中で、正しい言葉遣いについて子供たちと一緒に考えています。さらに、子供たちが乱暴な言葉を使っていたら、言葉遣いとして正しくないことを伝え、正しい言葉遣いについて指導をします。相手を傷付ける言葉を使っていたら、相手に対して謝り、人を傷付ける言葉は使わないことを指導します。ぜひ、ご家庭でも正しい言葉遣いについてお子さんと一緒に話し合ってみてください。

また、私たち大人も言葉遣いに気を付けなければなりません。私たち大人は、子供たちの心を癒したり、子供たちに勇気を与えたりするような言葉遣いや言葉がけをしているのでしょうか。大人は子供の人生の先輩であり、背中で子供を育てるモデルです。私たち大人も言葉遣いについて考えていきましょう。

6月は「ふれあい月間」です。ふれあい月間とは、東京都教育委員会が「こころの東京革命」教育推進プランの一環として始めた事業で、この期間中「相手の気持ちや状況を考え、想像して、優しくかわることができる」「みんなが気持ちよく生活するために、決まりやマナーを守ることができる」など、子供たち一人一人のさらなる健やかな成長をねらいます。本校ではふれあい月間を契機に、今年度も改めて子供たちと一緒に言葉遣いについて考えていきます。言葉遣いは、本人の心が決めるものです。つまり、言葉遣いは心遣いとも言えます。ふれあい月間の取組を通して、自分も相手も心がぽかぽかするような思いやりのある、温かい言葉があふれる学校を目指していきます。どうぞよろしくお願いいたします。